

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年4月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300831
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホーム ヴィラ サフラン
所在地	鹿屋市郷之原町12584番地 (電話) 0994-42-7220
自己評価作成日	平成30年 2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりとした時間をすごしながら今までと変わらない暮らしの中で、その人らしく安心して、楽しい生活を送れるよう、気配り、心配り、目配りができるように努力しながら日々の介護に取り組んでいます。

最後まで変わらない環境で生活したいと、ご本人、ご家族の希望に添い、終末期は主治医、鹿屋在宅支援診療所の医師、医療連携先の鹿屋訪問看護ステーション等と医療との連携を密に行い看取りを行っています。

又、ホームを活用した共用型認知症対応型通所介護のご利用者のご利用を頂き、地域に開かれた認知症ケアの啓蒙啓発に努めています。

これまで、併設の地域密着型デイサービスを活用し、四季の催し、その中で地域住民、関係者とのふれあいをとおして地域密着性を深めながら、参加者への認知症の理解や、認知症ケアの啓発に努めています。

高齢者配食サービスの事業も併設し、この機能を生かして、朝・昼・夜の食事の提供を受け、職員の介護に要する時間を設けると共に労務負担の軽減、食に関する栄養士の栄養管理も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 町内会に加入し、地域の災害訓練や慰霊祭に参加したり、ホームの避難訓練を実施する前には、近隣の住宅に避難訓練の案内文を配布し協力を呼びかけるなどしている。また、ホームの行事に地域ボランティアを受け入れ、隣接の共生型通所介護との交流活動、幼稚園、保育園児とのふれあい活動、中学生の職場体験や高校・大学生の体験学習、実習生の受け入れを積極的におこなうなど社会貢献に努めている。
- 食事は、隣接のフードサービスから配食を受けているが、朝は炊飯をしたり、日曜日は、職員が利用者の希望を聞いて調理している。
卵好きな利用者がおられ、居室に専用の冷蔵庫がある。また、夜間帯空腹の時、パンやコーヒー、果物などの間食をされる方がおられるため、職員は、利用者の希望を聞きながら本人本位に対応している。
- 毎日位牌に手を合わせ、お水を上げ、庭の花を摘み供えたりすることが日課であるが、本人の役割として介護計画に盛り込み計画的に支援している方や外出しショッピングして、嗜好品を購入したり、好きな菓子を片手にお茶をすることが楽しみだったり、生きがいに繋がっている方がおられる。職員は、一人ひとりの生活歴や希望を把握し、役割や楽しみごと、気分転換などができるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で自分らしく暮らし続ける事を支援していくサービスとして、事業所独自の理念「のんびりした時間を過ごしながら、今までと変わらない暮らしの中で、お一人、お一人の思いと家族との触れ合いを、大切に心のこもった介護を目指します」を作り上げて、職員一同理念を共有して実施につなげている。	ホームの理念は、本人らしく、個性のある生活の実現を目指しているが、隔週のカンファレンスや月例会で職員一人ひとりが個人のケアへの取り組みを発表し、理念を踏まえたケア実践ができていくか振り返る機会になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催の創立記念、秋祭り、年末行事の餅つき、そば打ちには地域の皆様の、ご家族を招待して、ボランティアも受け入れている。小学生の「お役にたちます運動」中学生の職場体験、大学生の研修を積極的に受け入れたり、隣接するデイサービスとの交流も積極的に行なっている。事業所もオープンにして地域の一員として交流をしている。	代表者は、地域の総会や清掃活動、防災訓練などに積極的に参加している。防災訓練には、利用者もともに参加があった。秋祭りには、幼稚園児が来訪したり、共用型の利用者、隣接のデイサービス利用者との交流活動があり、ボランティアや職場体験の受け入れに柔軟に対応するなど社会貢献している。また、地域の方から野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	毎年開催しています創立記念祭、敬老会、秋祭り等地域の皆様を招待した際、又触れ合い活動でのボランティア、小中学生や運営推進会議開催時に実践を通じて積み上げた認知症の理解や支援の方法等を地域の人々に向けて活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議毎に、ご利用者様、ご家族様のご希望、意向とサービス評価への取組状況等について報告を行い、委員の皆様からの素直な意見などを、積極的に頂きながら話し合い、そこでの意見をサービス向上につなげている。	会議で出された意見などは、カンファレンスで職員全員で話し合いサービスの見直しやケアに活かすよう努めている。喫煙者もおり、防火の観点から喫煙の仕方やケア方法について検討し、実践されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関しては、市の担当者、地域包括センター、サブセンターと日頃から連携を密に取り、事業所状況等、事故や問題が生じたら直ちに相談して指導、助言を受けながらサービスの質向上につなげている。	市担当者や福祉事務所職員との協力関係があり、電話や面談、メールなどで情報を共有したり、相談や助言を受けている。また、日常生活自立支援事業利用もおられるため、市社協との連携がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置して、月例全体会議での研修や、グループホームでのケア会議時などすべての職員が禁止となる具体的な行為を理解している。今まで身体拘束の事例はなく身体拘束0を指針としたケアに取り組んでいる。	昼間は、施錠せず喫煙者も職員の見守りを受けて玄関の外で喫煙している。身体拘束委員会があり、内部研修にて知識や技術を研鑽し、いかなる時でも身体拘束につながる行為をしない取り組みを実践している。本人が自由に移動できるよう住環境を整え転倒防止にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や、社内研修会で虐待防止法について学び、また身体拘束委員会を設置して虐待防止につ向けての取組を行なっている。虐待については管理者や職員は理解し周知できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などを通じ制度について学ぶ機会があり理解し、活用できるように支援をしている。現在1名のご利用者様が、日常生活自立支援事業を活用されています。今後も必要な方に対しては活用できるよう引き続き支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約の解除又は改定の際は、ご利用者やご家族様の不安や疑問点を聴取し、契約書、重要事項説明書を元に十分な説明を行い、理解・納得して頂いた上で手続きを行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の契約時に苦情・意見・要望等について、重要事項説明書に基づいて説明し、入居後にご利用者ご家族から直接面談で傾聴し、運営推進会議において、意見、要望を表せる場を設け、それらを運営に反映させている。お気づき箱も玄関に設置している。	「お気づき箱」は設置しているが、利用者や家族とは直接面談で意見や要望などを聞き取り、推進会議でメンバーから意見を拝聴したり、職員会議で話し合いケアに活かすよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例全体会議、月2回の恒例ケアカンファレンスの中で意見や提案が自由に出せる機会が設けてあり、代表者や管理者は、運営に関する職員の意見を反映させている。	管理者は、必要時、職員と面談しているが、相談の内容によっては、代表者と面談するよう臨機応変に対応している。月例会やカンファレンスなどで職員全員で意見交換し話し合っている。職場環境も良く、離職者も少ない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>社内全体の管理者会議を行い、代表者も職場や職員の状況を把握している。毎月1回の社内全体会議においても直接思いを伝える機会もあり、各自が向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内は回覧で周知できるように、職員の希望も入れて積極的に研修に参加している。研修後は研修報告を作成して回覧し、全体会議で研修発表を行い、社内研修に活かしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会、鹿屋市地域包括センター主催の研修会、鹿屋市の集団指導などにおいて、他施設の状況など学びサービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設を見学して頂いて、その際にご本人、ご家族の意向、希望について聞き取り、理解、納得して頂き、課題解決に向けてのサービスが提供できるように努力している。又、時間をかけながらゆっくり信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学して頂いて、ご家族の相談事、困り事、希望や思いを聞き、施設の理念の説明を行い納得理解して頂き、ケアプランのサービス内容の確認、今後の方向性などについて話し合いを行い、理解をして頂きながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供により内容の確認を行い、継続しながら「その時に」必要としている支援を行い、必要に応じてその都度サービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と過ごす時間を多く持ち、過ごす時間の中でも喜怒哀楽を共感しながら、人生経験などを伺う機会も多く、そのなかで利用者様から教えて頂く事柄も多く共に支え合う関係を気付いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力を得て、ご本人と一緒に支えて安心して生活をして頂く支援、ご本人、ご家族との絆の構築をするために、ご家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思いを尊重して地域の方との関係の継続や隣設のデイサービスに出かけて馴染みの人達との関わりを行なっている。買い物の希望時は近くのスーパーに外出し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	軽度認知症の方は、買い物の依頼もあり、職員と近くのスーパーに買い物に行っている。訪問理美容の利用や家族の協力をいただきながら、墓参りしたり近所の方の面会や自宅の花を届けて下さる方がおられる。また、携帯電話で知人や家族に連絡をされる方、年賀状や絵手紙のやりとりをされる方の代筆などの支援をおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い助け合い、支え合いながら暮らせるように支援をしている。外気浴やグループワーク、新聞の解説等一緒にして共感されてお互いとてもいい関係ができて支えあって生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族のご希望により特別養護老人ホームへ入所されサービス利用(契約)が終了したケースが1名あった。契約終了後もこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立案する中で本人が望む暮らしの自己実現に向けて意向を確認している。困難な場合においても、発せられる言葉や会話の中で見出し、発言や行動で思いを汲み取るようにしている。ご家族と共に本人の思いを共有し、本人らしく暮らせるよう、ケアカンファレンスや担当者会議などで話し合っている。	声にならず、言葉にできない方の排泄支援では、職員が注意深く発語を読み取り意志疎通を図りながら排泄の自立支援をおこなっている。本人の思いは、朝礼時の申し送りやカンファレンスなどで情報を共有するよう取り組んでおり、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居予定前に本人、家族、各関係機関から情報提供を頂き、本人の成育歴、生活歴など詳細に情報を頂いている。サービス利用に状況は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日課表の中でそれぞれの生活状況を確認している。身心状態有する力等の現状を把握するために、申し送り、記録等をとって状況の把握に努めて情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時、短期目標に変化を及ぼす状況変化時はモニタリングを行い、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、介護計画の見直し、現状の介護計画を作成している。	ケアチェック表を活用し、情報を整理・分析し、3ヶ月1回モニタリングを実施している。また、6ヶ月1回は、計画の見直しを含め評価している。介護計画は、本人の生きがいや役割を具現化し、本人らしい暮らしの実現を目標設定した個別性のある計画になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンス等においてもサービス内容を共有して記録に反映している。又、日常生活の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型ディサービスを併設して、現在2名の方がご利用、その中で夕食の持ち帰り、早い夕食、利用日の洗濯、日用品の買い物などの支援等、ニーズに応じた柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源の活用はボランティアの受入れ、近隣の小、中学校の子供たちとの交流等、大学生実習の交流なども積極的に受入れて地域資源のかかわりの中で豊かな暮らしが楽しむ事できるように支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医制を取り通院の支援を行っている。本人が健康で元気な生活が送れるように、かかりつけ医と関係の構築、状態に応じて適切な医療が受けられるように主治医に働きかけている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、訪問診療や外来受診し、緊急時や他科受診等は、家族や職員が同行するなど協力体制がある。利用者が内服薬管理をされる方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>申し送り、ケアカンファレンスで現状の確認、治療、今後の予測等について情報を共有している。医療連携の中で困り事など相談、アドバイスを受け利用者が適切な医療が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際は情報提供を行い、治療の状況、退院に向けての相談は積極的に行い、入院中の情報を頂いている。入院生活が短くすむように、住み慣れた環境での生活にもどれるように働きかけながら連携を行なっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合における対応に関する指針を入居時ご本人、ご家族に説明している。終末期は家族に重度化の指針をその都度説明して同意の下、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、主治医、訪問看護師、と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針」に関する同意書にて説明・同意をいただいている。看取りの経験も多く、早い段階から利用者、家族、主治医を始めとする関係機関との話し合いを行い、チームケアにて取り組んでいる。管理者は、入所時に医療や介護に関する意志確認を文書化したいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、緊急時の対応についてはカンファレンス、月例会などをとらして職員全員の共通認識ができています。急変や事故発生時の対応は定期的に続けて実践力が職員全員が身に付けているように今後も続けていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者による消防計画に基づき毎年6月自主避難訓練と12月消防署立会いの避難訓練を年2回行なっている。又、近隣の居住者に災害時の協力要請をお願いして快く承諾を得ている。また地域の防災関係機関へも日頃から働きかけ協力体制を築いている。	地域の協力関係があり、町内会の防災訓練にも積極的に参加している。避難訓練実施前に、近隣に協力の案内文を配り協力を呼びかけている。今年は、1家族が参加され、運営推進会議と避難訓練を同時に実施した。備蓄は、隣接のフードサービスで管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを損ねることのないように生育歴、生活歴を汲み取り、また周辺症状などの状態を考慮しながら、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行なっている	苗字や下のお名前でお呼びなど、失礼のないよう配慮している。居室へ入室する際は、必ずノックしたり、扉は基本閉めるなどプライバシーに配慮したケアに努めている。職員は、内部研修でプライバシーに配慮したケアについて自己研鑽しケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な支援のかかわりに於いて本人の思い、意向をしっかりと受け止めて、自己決定できるように働きかけ寄り添った介護の支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づいて一人ひとりのペースを大切に、ゆっくり、のんびりとその人らしくご本人のリズムを大切に、ご本人の希望、意向にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々それぞれに、その人らしく自分で身だしなみやおしゃれを楽しまれている。自分の意思が伝えられない方は、ご家族の意向を取り入れて身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆様が一番の楽しみとなっている。それぞれの希望が可能な限り朝の味噌汁に落とし玉子や嗜好のパン等食べる意欲を支援している。ご利用者の能力に応じて片づけも一緒に行なっている。	刻み食、とろみをつけるなど食事形態を工夫し、誤嚥を予防している。毎日、隣接のフードサービスから配食を受け日曜日は職員が調理している。卵好きの方は、居室に冷蔵庫を設置、夜間帯空腹時にパンや果物など軽食を摂る方がある。5月は、家族と一緒にテラスでバーベキューを楽しんでいる。利用者は、餅つきを楽しみしており、食べやすく刻み餅も食している。お弁当や手作りケーキ、クリスマス会は、デイと合同で実施している。また、外食は家族に協力をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の量や栄養バランスについては主治医の指示や社内の栄養士のメニューを提供している。水分制限は今の利用者様はない為、水分は積極的に飲む支援を行い水分量の確保を行なっている。食事量や水分量の記録を行い、食べこぼしや嘔下量の少ない方はエンシアリキットで栄養の確保を行い度ごとに主治医に相談を行なっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>日々健康管理の中で口腔ケアは大切なケアであり、毎食後の口腔ケアには取り組んでいる。毎日にこの日課の理解ができる利用者の方は自分で進んでできており、介助の方は理解、協力を促しながらケアしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄記録にて情報を得ている。排泄パターンを良く理解して、排尿誘導の時間、排便のパターンの中で1回でも多くトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>職員は、昼間居室にポータブルトイレを置かないよう配慮している。また、トイレトペーパーはその都度職員が準備するなど工夫している。布下着に尿パットを着ける方が多く、時間やタイミングを見てなるべくトイレで排泄ができるよう取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>バランスの良い食事の提供や入浴や散歩で、体を動かして排便を促している。排便と周辺症状の関係はとても重要で排便記録の中でその方に応じた緩下剤の調整も行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日の入浴支援を行なっている。入浴で爽快感が感じたり、楽しめるように本人の意向を聞きながら、順番等についても配慮している。週に1回以上は隣接のデイサービスの檜風呂に入浴頂き温泉気分が堪能できる入浴の支援している。	本人の希望や体調また必要性に応じて柔軟に、毎日の入浴を支援している。また、隣接のデイの浴室で檜風呂を楽しみにされる方もおられ入浴することへの楽しみに繋がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて起床時間、就寝の生活リズムを整えている。利用者の方は日中は活動して、夜間は良眠する生活リズムができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康維持の為処方されている薬を飲んで頂くように支援をしている。定期薬以外の処方薬についてはカンファレンス等で目的、効果、副作用等について説明して共通認識している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅から位牌を持って来て毎日の声かけで供え物をしたり、庭先の花を摘んで供えたり、役割の支援をおこなっている。又嗜好品は希望に応じながら買う楽しみであったり、食べて楽しめる日々の張り合いになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの利用者様のご希望に添って、ご家族との外食、近くのスーパーへの買い物に出かけたり、年始には隣町の神社に初詣に出かけいる。毎日の日課で散歩に出かけて外気浴を楽しまれている。	天候を見てデッキで外気浴をしたり、近隣の公園まで散歩に出かけたりしている。春秋のお花見見物、毎年デイと合同で初詣に行ったり、家族に協力をいただきながら外出や外泊も楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は9名中2名の方が自己管理されている。出納帳の中で領収書を管理し、1か月、希望時はその都度確認をして頂いている。毎月御家族にも出納帳の写しを送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	生活の中で電話は自由に、希望に応じてかける事、取次も自由に出来ている。年賀状でのあいさつ、遠方の御家族には元気な様子を伝えたり、ご家族の存在を感じて自分の生きがいになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は家庭的で入りやすく、ホーム内は和風の広々とした雰囲気である。不快な音、光はない。玄関は季節の花をご家族から頂いたりしている。ソファ、こたつ、テーブル、ウッドデッキ等どこでもくつろいで頂けるように居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、今年度の法人のスローガンが掲示され、玄関内に季節の生花が活かされている。居室はフロアと並行に一列に並んでおり、中央に畳スペースがあり冬場は炬燵でゆっくり過ごすことができる。食堂兼リビングからは、ガラス越しに周辺の景色がパノラマ写真のように一望できる上、ウッドデッキから直接戸外に出かけることもできる。清潔感があり、対面式キッチンで明るく開放感のある空間である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のご利用者同士での時間を過ごされている。のんびりと新聞の解読、折込チラシなどを見ながら会話も弾んでいる。レクリエーション等をとうしてグループワークの時間も楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者本人、ご家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等なじみ深い物など本人が居心地良く、安心して過ごせるような環境作りを工夫して落ち着いた時間を過ごされている。	位牌、髭剃り、毛布などの寝具など使い馴染んだ品を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。以前は、畳だったが下肢筋力低下に伴いベットに変更した方がある。専用冷蔵庫には好きな卵が入っていたり、自由に携帯電話を使用される方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は自由に動ける広々としたスペースがあり、ウッドデッキにも自由に出入りされている。トイレの表示もされており、それぞれの能力に応じて自立支援を目指している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない